

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.178

2017年1月30日

発行所 兵庫教育文化研究所
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

ゆたかな表現活動をめざして 日本語教育部会 授業研究会

日本語教育部会が、芦屋市の学校において授業研究会をおこないました。5年次生（高2）の「国語表現」の授業で、「書く・話す・聞く・話し合う」という言語（表現）活動を積極的に行うことを通して、その楽しさや意義を体感させるという授業内容でした。

授業は、昭和の名曲の歌詞のなかから、さまざまな表現の工夫をさがしてみようという和やかな雰囲気で行われました。メモをもとに冬休みの思い出についてスピーチを考える場面では、「登場人物を2人以上」「会話・感想を入れる」などの設定された複数の条件であるにもかかわらず、短時間で内容を構成していました。スピーチも表情も豊かに、身振り手振りを交えて聞き手に聞いてほしいという思いが伝わるものでした。



その後、「大学入試は必要か」というテーマで、ディベート型ディスカッションをおこないました。まず、各自の考えを肯定側・否定側からワークシートに書きました。その際には、より説得力のある意見とするために、理由や具体例などの根拠を考えながら整理しました。そして、司会者・肯定側・否定側に分かれ、いきいきとディスカッションをする姿がみられました。自由に話し合いができる雰囲気の中で、本時の授業だけでなく、これまでの集団づくりの成果が感じられました。



授業後の研究会では、まずスピーチについて、表情が豊かでモデルになるスピーチであった、言葉をつなげたり補ったりという「対話」ができていたと評価されました。また、録音や録画などを通して全員で振り返ってみるのもよかったのではないかという意見がでました。

活動の評価についての議論では、「ディベートにおいて司会役がジャッジをすることになっていたが、両方の意見を聞くことで精一杯だったのではないか」「自分たちの話し合いの展開を客観的にみる視点が必要であるため、これも録画等をとって見直すのもよいのではないか」「身近な問題ほど肯定側になってしまう傾向があり、否定側の生徒の心の動きがあったのでは」との意見がでました。今後も日本語教育部会では、ゆたかな表現力の向上につながる授業をめざして研究を続けていきます。

（本授業の指導案は「組合員専用ページ」に掲載しています。ID、パスワードは各支部へお問い合わせください。）